

# 「昇龍道プロジェクト」の推進

中部運輸局 企画観光部

国際観光課課長補佐 白木 広治

中部運輸局・北陸信越運輸局は、「昇龍道プロジェクト」を提唱し、推進しています。これは海外から中部・北陸圏へ訪日客を増進させることを目的としたもので、推進母体の「昇龍道プロジェクト推進協議会」には、460 団体（月末）が参画しています。

このプロジェクトは能登半島を龍の頭に見立て、龍が天に昇っていく様な運気の良い「昇龍道」という名称を付け、中華圏や東南アジアをターゲットに地域一体型プロモートを展開し、昇龍道に参加する中部・北陸 9 県が地域を挙げてハード・ソフトの両面のホスピタリティを向上させ、同時に観光エリアとして知名度と実力をアップさせようという狙いです。

我が国では 2003 年から、ビジット・ジャパンキャンペーンを展開しています。観光立国を推進する法律ができ、観光庁も設置されました。昨年 3 月に決まった観光立国基本計画では、13 年に訪

日外国人数を 1000 万人、16 年は 1800 万人を達成することを目標としております。

震災の影響からもほぼ回復しており、12 年には 835.8 万人で過去最高を記録した 10 年の 861.1 万人の 97% となっています。13 年には目標の 1000 万人はクリアできる勢いとなっています。

中部・北陸地域に絞ると外国人の宿泊数は、震災後の 11 年の 178 万人泊から 12 年の 245 万人泊まで回復していますが、各県個別に見ると愛知県の全国 6 位が最高で、静岡県が 10 位、長野県の 16 位と続きます。全体的に潜在力を発揮しているとは言えず昇龍道 9 県全体でも大阪府に及ばないのが実情でもう少し頑張りたいところです。

中部・北陸地域の観光資源は豊富で、自然景観、温泉、歴史文化、食、ショッピング、テーマパーク、産業観光など世界に誇れる数多くの観光資源があります。それでも地域のインバウンドが伸びない理由の一つには知名度の問題があります。

昇龍道プロジェクトでは知名度を向上させ、観光力を強化するために、昇龍道 9 県の観光資源を端的に紹介する「昇龍道春夏秋冬百選」、昇龍道に訪れた外国人が観光施設等で特典を受けられる制度の「昇龍道ウエルカムカード」、名古屋の周遊を容易にする「SHORYUDO Enjoy Ticket Set」を新たに用意し、市場ごとに戦略的なプロモーションを行っています。

中部・北陸地域への訪日客の特徴は、12 年の訪日旅行者の割合を見ると中国 24.6%、香港 5.0%、台湾 22.6% で中華圏が全体の 52.2% を占めています。その中でも台湾からの旅行者は 78% がリピーターで成熟した市場であり、中国のように東京、富士山、京都、大阪といったゴールデンルートありきではなく、この地域の魅力を十分に伝え





台湾観光協会との覚書締結式



昇龍道観光セミナー

れば台湾からもっと多くのからに来ていただくことが出来ます。

昇龍道プロジェクトでは、台湾を重点市場として取り組んでいましたが、折しも今年5月に日台観光サミットが開催されることから、年度当初から最重点に取り組みました。

5月13日から15日には、「昇龍道ミッション」として昇龍道プロジェクト推進協議会三田会長（中経連会長）、永原副会長（北経連会長）、が揃い踏みで、中部運輸局長のほか、三重県副知事、岐阜市長、高山市長、下呂市長、郡上市長など、自治体や民間から総勢80名を超えるミッション団が台日本交流協会台湾事務所、台北日本工商会を訪問し、当プロジェクトへの協力をお願いし、台湾政府観光局、台湾観光協会、エアライン、旅行会社を訪問し、昇龍道地域の9県が一体的なプロモーションを行いました。また、昇龍道プロジェクト推進協議会と台湾観光協会の間で「観光及び友好交流における協力覚書」を締結し、台湾側の昇龍道プロジェクトへの支援を含む日台間の交流を深化させることとしました。

ミッションに引き続き5月17日から19日に台北駅で開催された「日本の観光物産博2013」には、



日本の観光物産博

全76ブースのうち24ブースに昇龍道ブースを出展し、好評を博しました。

このように13年はスタートダッシュで台湾へのプロモーションを実施し、昇龍道を強力に印象付けることができました

引き続き、皆様にご協力いただきながら様々なプロモーションを絶え間なく実施し、魅力あふれる昇龍道地域に台湾から多くの方に訪問していただけるように取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。